

錦町が「ふるさと住民票」

カードや名刺贈呈 関係人口拡大目指す



錦町が発行を始めた「ふるさと住民カード」

錦町は、ふるさと納税などで既に町とのつながりがある人や、町に関心を持つ町外住者を「ふるさと住民」として認定する「ふるさと住民票」の取り組みを始めた。参加者には町政への提言やイベント参加を呼びかけ、町外に住みながら、まちづくりに関わる関係人口の拡大を目指す。

(中村太郎)

ふるさと住民票は、居住地以外とつながりを持ちたい人が気軽に地域づくりに参加できるように、政策シンクタンク「構想日本」(東京都)が導入を提言して2016年に始まった取り組み。今年7月段階で全国13市町村が導入済み。県内では天草市が18年、同様の「天草市ふるさと住民登録制」を始め、約5000人が登録しているという。

錦町のふるさと住民に

は、町花のツクシイバラが描かれた「ふるさと住民カード」や、町の魅力を紹介する冊子のほか、希望者にはふるさと住民の名刺を贈呈。町内イベントにボランティアとして参加できるほか、町の総合計画策定時にも携われるようになる予定で、町は今後のまちづくり

に「外の目」を生かすことを狙う。

ふるさと住民には「町外住者」のほかに条件を設けない。町のホームページからスマートフォンでQRコードを読み込んで登録する。

町企画観光課の担当者は「SNS(交流サイト)などで情報発信も担ってもらい、錦町の知名度アップにもつなげたい」としている。同課＝0966(38)4419。

岱明町公民館建て替え 玉名市 防災機能を強化



開館した玉名市の岱明防災コミュニティセンター

玉名市が老朽化した岱明町公民館を建て替えた「岱明防災コミュニティセンター」が開館した。防災機能を強化したほか、市社会福祉協議会と市包括支援セン